

ブーム復活？最近の映画事情

減り続けていた全国の映画館入場者数は96年の1億2千万人を底に増加に転じ、98年には1億5千万人を超えました。また、スクリーン数も1,884スクリーンへと増加しました。福岡県内においても、95年には68スクリーンだったのが今年9月には122スクリーン（福岡県興行環境衛生同業組合資料を参考、非組合員を含む）に増加しています。復活の兆しがみえてきている最近の映画事情について見てみます。

最近の県内の映画館の動きを見ると、福岡地区では、96年に13のスクリーンを持つ映画館がオープンし、97年には、中洲の映画館の一つが天神へ「シネマコンプレックス」として移転しました。来年4月には、百道地区に10スクリーンの映画館がオープンする予定です。北九州地区においても、98年に中間市で国内最多の16スクリーン数

最近県内に開設された主な映画館

	開設時期	座席数	スクリーン数
福岡地区	1996. 4	2,600	13
	1997. 3	1,396	6
	1998.11	1,661	8
	1999. 4	3,214	14
	1999. 5	137	2
北九州地区	1998.11	2,664	16
	1999. 3	1,691	8

を持つ映画館がオープンするなど、福岡県内の映画館の数が増えています。

最近「シネマコンプレックス」と呼ばれる新しい形態の映画館が増加しています。建物内に複数のスクリーンを持ち、入場券売場、売店、入口および映写室等を共有しており、シートもゆったり配置され、音響効果もよくなっています。多くはショッピングセンターなどに併設さ

れ、車社会に対応して駐車場もあります。また、複数の人気作品を並行して上映できるため、高い集客力が見込めます。上映作品の集客力によってスクリーンを割り当てたり、ヒット作品の上映期間を延長したり、総入れ替えで立ち見がなくなるなど、観客にとっては映画を見やすく、映画館にとっても効率性の高い仕組みとなっています。

映画人気の復活は97年の「もののけ姫」、昨年の「タイタニック」などのヒット作品に恵まれたこともありますが、毎月1日をファーストデー、夜9時以降のレイトショー、水曜日はレディスデー、60歳以上をシニアとして、入場料の割引サービスをしたり（一部映画館を除く）、子供の休み期間中には親子で楽しめる映画を上映するなど、集客力アップのための映画館の地道な努力が実を結んだ結果ともいえます。12月1日は映画の日です。是非映画を見に行かれてはいかがでしょうか。（松本）